
悲しい手紙

林檎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悲しい手紙

【Nコード】

N5871B

【作者名】

林檎

【あらすじ】

『誰か』にもう二度と会えないと気付いた時。そんな時の気持ちはどう表現したらいいのでしょうか。私は今日も、ぼんやりと昔を思い出しながら煙草を吹かしています。

氣付いたんですよ。

いきなりごめんなさい。

だけど、どうしても伝えたくて、こつやっぺいきなり手紙を出すことをお許しください。

いつか、貴方が言った言葉を覚えていますか？

私はすっかり覚えています。

あの時の貴方の真つ黒な瞳をはつきりと思い出せるのです。

「多分、お前から言うよな。さよならって」

貴方はそう言っただですよ。

今想うと、未来はその通りになっぺしまひましたね。

貴方は勘が鋭い人でしたから、知っぺしまつたのでしょうか。今を。

東京はどうですか？

少しは都会に慣れました？

最後に電話をしてから、もう二年が経ちますね。

貴方は私の事など、きつと忘れているんでしょうね。

寂しいと思う私は現金な女でしょうか。

住所が変わっぺいない事を祈ります。

近頃、ふと成長した貴方を想像することがあります。

なんだかきつと貴方は痩せているような気がします。

そして、いくらか都会的になっぺているのでしょうか。

服の好みは変わりましたか？

煙草を吸いすぎていませんか？

私は相変わらなすです。

卒業してから始めた、あの医療事務の仕事も、早二年が経ち、すっかり板に付いてきました。

貴方はこの手紙を読んでくれるでしょうか。

少し不安なまま、思いつくままにペンを走らせています。

でも読んでくれなくとも、それはそれでいいかな、とは思いますが。

この手紙は、私の単なる自己満足を満たすためのものに過ぎないのかもしれない。

自分勝手な私をお許しください。

私は貴方にひどいことをしましたね。

貴方は何も悪くなかったのに。

泣いて謝る貴方の電話を一方的に切り、無視をし続けたのです。

私を恨んでいることでしょう。

それでも、恨まれているなら、まだ救われる気がします。

私を恨んでください。

私の頭の中では、鳴り止まない電話のベルがずっと今でも響いています。

貴方との四年間にも渡る付き合いの中で、私は多分全てを使い果たした気がします。

もうずっと、誰も愛せないのです。

長いこと、誰も好きになれないのです。

言っておきます。

私は貴方と頼を戻したいなんて、そんな身勝手な事は考えておりません。

貴方には貴方の、私には私の、今の生活があります。もう昔とは全てが変わってしまったのです。

それなら、私は何故このような手紙を書いているのでしょうか。
最初に言いましたが、ある発見をしたのです。

私が最近気に入った俳優さんがいます。また、最近気に入ったバンドのボーカルがいます。

それで、ふと気が付いたんです。

笑ってしまいますが、そのどちらも貴方に似ているんですね。

気付いた時には驚きました。

それで、なんだか嬉しくて思わずペンを取りました。

今思い返してみると、私は貴方に甘えてばかりでしたね。

わがままばかり言っていましたね。

あれはまるで、泣いてダダをこねている幼い子供のようにでした。

だけど貴方は一度も私を叱ったりしませんでした。

ただ優しく抱き締めてくれましたね。

そんな時、私は貴方を愛しいと思いました。

貴方もそう思ってくれていたのでしょうか。

貴方はこうなる事を少しでも分かっていたのか、そう思うと、貴方が悲しくて仕方ありません。

私のわがまままで最後まで貴方を困らせてしまったのですね。

最後の電話の日、貴方はもしかして私を抱き締めたいと思ってくれたのでしょうか。

終わってしまったのは距離のせいだったのだと、考えてしまう私はやっぱり今でもわがままなのですね。

よく二人で考えていましたね。

『林檎』という名前を覚えていますか？

この世に命芽生える事すらなかった私達の子供の名前です。

貴方はいつか、誰か綺麗なお嫁さんをもらって、貴方に似た可愛い子供を作るんですね。

どんな名前にするのでしょう。

貴方が欲しがった女の赤ちゃんだといいですね。

深夜の商店街を、自転車で走った日を思い出します。

貴方の後ろで、私が口ずさんだ歌を覚えていますか？

私は今でもあの歌が大好きです。

押し入の中から昔のカレンダーが出て来ました。

どのページをめくっても、ちゃんと6日に丸印がついていました。

今、私の手帳には仕事の予定ばかりで、まるでつまらないカレンダーです。

何故でしょう。

涙が止まりません。

悲しくて仕方がないのです。

私はこれからも生きていきます。

貴方も生きていきます。

でも私達はもう二度と会えないのですね。

私達は、別々の人と結婚していつか幸せになるのでしょうか。

きっと、貴方より好きになれる人が、私にもいつか現れるでしょう。

あまりにも悲しすぎます。

だからしばらく、夢の中に現れて、あの頃の二人に戻って、私を抱き締めてくれませんか？

（後書き）

読んで頂いてありがとうございます。感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5871b/>

悲しい手紙

2010年11月3日14時43分発行